

埼玉県の病院で働く医師を増やしてください

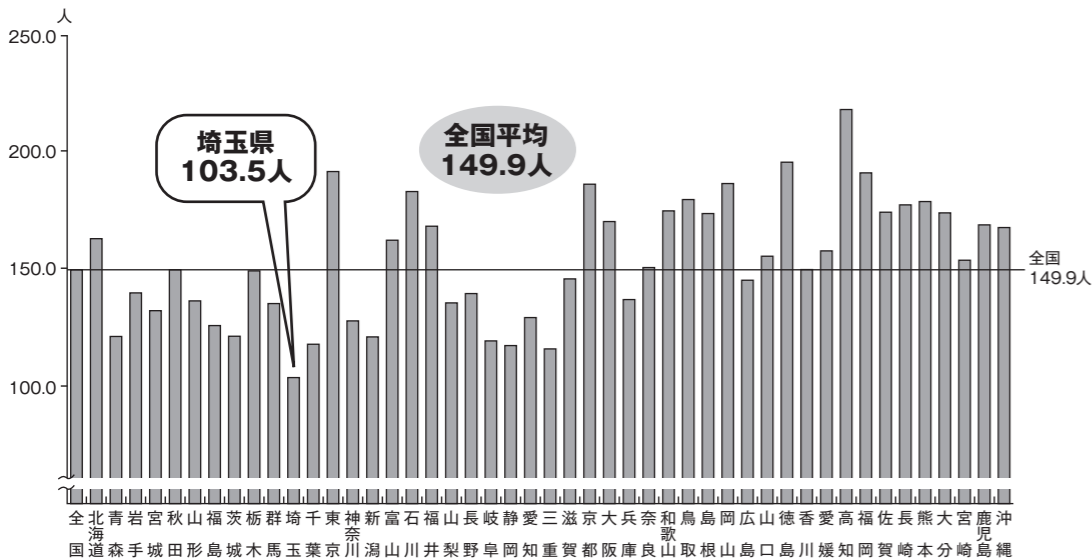
私たちは県政の最重要課題だと考えています

意見広告

❗ 救急搬送先がない

❗ 小児救急輪番体制が埋まらない

都道府県別にみた病院における人口
10万人対常勤換算医師数(2009.10)



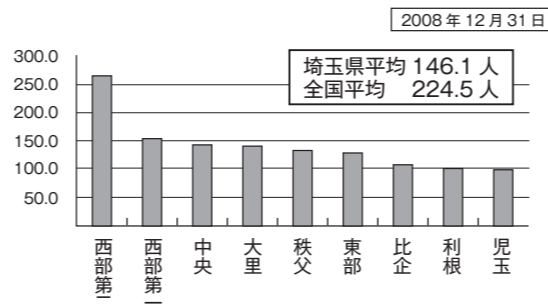
出典 厚生労働省 平成21年(2009)医療施設(動態)調査・病院報告の概況

埼玉県の入院ベッド 全国での位置

病床数			人口10万対病床数		
病院	一般病床	順位	病院	一般病床	順位
全国	909,437		全国	712.2	
埼玉	34,787	8	埼玉	489.1	47

出典 埼玉県ホームページ 埼玉県保健統計年報平成20年調査 による

第2次医療圏ごとの10万人対比医師数



出典 埼玉県ホームページ 埼玉県保健統計年報平成20年調査 による

日本の医師不足が言われていますが、中でも埼玉県が人口比で最も少ない状態です。医師数だけでなく看護師等も全国平均(687人/人口10万人)を大きく下回る445人/人口10万人です。一般急性期のベッド数も、全国平均が712床/人口10万人なのに対して、埼玉県は489床/人口10万人で7割しかありません。埼玉県は、全国最下位の医療体制(救急医療や医師・看護師数)の状態にあります。

埼玉県は重症患者の救急搬送で3回以上の受け入れ拒否の件数が、東京に次いで全国2位(2296件)の多さです。県政に問われているのは、県民の命を守るために手薄な救急医療体制を立て直す

最重要な課題として埼玉県の病院で働く医師の不足をどう打開するのかということです。

埼玉県は高齢化のスピードが全国で最も速い上に、既に高齢者(65歳以上)人口は116万人と全国で6番目に多くなっています。必然的に医療必要度は高くなり、埼玉県が毎年実施している県民世論調査でも、県民の要望の第1位が「高齢者福祉の充実」、第2位が「医療体制の整備」となっており、県民の切実な要望であることがわかります。

こうした事態に真剣に目を向け、今から手を打たなければなりません。医療従事者の努力に頼るだけでは、とても間に合わなくなるでしょう。

私たちは、次の要請をするための署名に取り組んでいます。ご協力をお願いします。

1. 埼玉県内に国公立の医学部をつくってください。
2. 当面、県内の病院に勤務する医師を増やすための措置を講じてください。
3. 県出身の医学生が埼玉県に戻って研修できるように奨学金制度を拡充してください。

埼玉県民主医療機関連合会 会長 山田昌樹・医療生協さいたま生活協同組合 理事長 神谷稔

埼玉県川口市木曾呂1317 ふれあい会館2階
電話(代表) 048-294-6111